

令和7年度 当別町子ども発達支援センター自己評価の結果について

【評価対象事業】

- ・放課後等デイサービス事業

【調査機関】

- ・令和7年12月1日～令和7年12月19日

【調査対象者】

- ・当別町子ども発達支援センター支援員

【回答率】

- ・配布数：7部 回収数：7部 回収率：100%

*回答を分析し、次年度の改善に反映してまいります。

【評価】

- ・適切な支援の提供につきまして、活動プログラムの工夫や内容の検討が必要であるという評価と、支援終了後の職員間での振り返りや反省点の確認、共有が不十分であるといえる評価でした。
- ・関係機関や保護者との連携につきまして、自立支援協議会への参加の項目において、ケースについてより深く学ぶ場がほしい等の意見がありました。
- ・保護者への説明等につきまして、今年度は保護者交流会の開催ができなかったの
で、開催方法や周知方法を検討していく必要があるという意見がありました。

【課題】

- ・今後も、よりお子様や保護者のニーズに沿った支援を行うことができるよう引き続き支援員の体制を十分に整えることが課題です。同時に職員一人ひとりの資質向上及び意識の向上が今後も課題と考えます。
- ・児童一人ひとりの課題や、グループの特性に合わせながら、活動プログラムの工夫や内容を熟考していくことが今後も課題となります。職員間で意見を出し合える機会を設けることや、相談を重ねながら、集団遊びの工夫が課題となります。
- ・保護者交流会は、次年度に向けて開催や周知の方法の検討が課題となります。保護者のニーズを確認するなど、内容を熟考し、交流の機会につながるよう努めます。

【今後に向けて】

- ・職員一人ひとりが自主的に研修等を受講し、個々でも学ぶ機会に触れながら自己研鑽に努め、専門性や資質向上を目指し、適切な支援の提供につなげます。
- ・活動プログラムは課題や特性に応じながら、内容等検討し、必要な見直しを図ります。職員間で相談を重ねながら、集団遊びの工夫等内容の充実に努めます。
- ・職員間で気が付いたことや、気になったことを共有し、支援について意見交換を行いながら、児童と保護者が家庭や学校、地域の中で、健やかに生活できるよう、今後もあらゆる視点から支えていけるように努めます。